

平成 26 年度 第 1 回仙台市景観総合審議会 議事録

日 時 平成 26 年 5 月 27 日 (火) 午前 10 : 00 ~ 12 : 00

会 場 仙台市役所本庁舎 2 階 第 5 委員会室

出席委員 庄司 俊充委員、杉山 朗子委員、武山 良三委員、桴窪 昌之委員、
巖 爽委員、吉川 由美委員、涌井 史郎委員

欠席委員 佐藤 盛雄委員、馬場 たまき委員、堀 繁委員、宮原 博通委員

仙 台 市 都市整備局長、中村理事、福田次長、村上次長、吉野参事

事 務 局 都市整備局計画部都市景観課

そ の 他 宮城県土木部都市計画課

1. 開会	
事務局	<p>只今より、平成 26 年度第 1 回仙台市景観総合審議会を開会いたします。本日司会役を務めます都市景観課の早川でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>初めに、本日皆様のお手元にご用意いたしましたペットボトルのボトルウォーターについて簡単にご説明いたします。このボトルウォーターは仙台市水道局が水道水を使って作製したものでございます。災害に備えた自助の取り組みを目的として、ご家庭での水の備蓄を行うとともに、防災への意識を高める一助になればと取り組んでいるものでございます。</p> <p>それでは、今年度の第 1 回景観総合審議会の開会にあたりまして、都市整備局長の小島より、ご挨拶を申し上げます。</p>
2. 局長挨拶	
小島局長	<p>おはようございます。本日はご多忙の中ご参集いただきまして本当にありがとうございます。5 月になりますと仙台、ケヤキが芽吹いて一番新緑の季節として良い季節かなと思っております。意外と 5 月というのは仙台のお祭りの、いわゆる皮切りといえますか、夏に向かっていくということでございまして、仙台青葉まつりがございます。実はこの間の土日、山形の会場でございましたけれども復興を祈念して東北 6 県の祭</p>

	<p>りを一堂に介してやる六魂祭と申しますけども、それも晴天の中行われたということでございます。</p> <p>昨年度も紹介いたしました、この青葉通で協議会を作っておりますが、景観まちづくり協議会でございますが、市長の考えでも、色々イベント等をすべきだということがございまして、青葉まつりで協議会がオープンカフェを開きまして、今年で2年目で大分人だかりがあったとの報告がございまして、段々そういう景観につきましても新しい動きと申しますか、そういうところも出てきているのかなと思っております。</p> <p>この青葉通でございますけども、ご承知のように来年の3月に、もう1年以内となりましたけども、国連防災世界会議が開かれるということでございます。我々としてはそのおもてなしと申しますか、来仙される世界各国の方がたも含めて、いわゆる美しい、我々としても自慢出来る街、これについてご案内等についても十分に行っていきたいということございまして、1月の審議会ではいわゆるサインシステムと申しますか、歩行者系案内システムについて色々ご審議いただいたところでございます。</p> <p>その後専門部会におきまして武山先生に色々ご指導をいただきながら、検討を進めてきたところでございます。本日はこの専門部会で検討してきた内容のものを素案として取りまとめさせていただきまして、ご説明し、ご意見を賜りたいという風に思っておりますのでひとつ宜しくお願ひ申し上げたいと思ひます。簡単ではございますけども開会にあたっての私からのご挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>続きまして、涌井会長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
3. 会長挨拶	
涌井会長	<p>只今、小島局長からお話がありましたように本当に青葉城と名前がついているとおりに、今が一番良い季節なんではないかなと、そういうような気がしてます。先程オープンカフェの話がございましたが、仙台市に触発されたか分かりませんが、現在虎の門六丁目、虎六といわれる立体的なといひましようか、立体道路制度などを活用した東京都施行の最終的には森ビルの所有になるわけでありましたが、かなり東京のランドマークになるビルがマッカーサー道路といわれてる環状2号線の上に出来上がっています。このマッカーサー道路の構成っていうのは地下にいひゆる一般道、そして両脇にいひゆる街路的な道路というものがあひまして、これを舛添知事がシャンゼリゼ構想といひてオープンカフェをそこに展開をして、シャンゼリゼのような通りにしたいといひような構想を述べているんですが、オープンカフェも実は実例っていうのはそう多いので</p>

	<p>はありませんもので。仙台のブルバール、いわば四列に街路樹が埋まってる空間があればこそ可能なのかなとそんなような気がして、なかなか、いくらマッカーサー道路でそれを真似しても、さほどの魅力は出ないんじゃないかと私の心象なんでありますが、それはそれとして、前回の審議会で今局長からお話しございましたように、武山先生を部会長としまして専門部会を作っていただいて、おかげさまで2月、4月、5月と3回にわたって専門部会を開催していただいて、今日お手元に審議の対象となります1つの方針案というものをお示しただけたようであります。言うまでもないことではありますが、いわば歩行者系の誘導サインというのは非常に重要な要素でありまして、世界中の都市が今、実は何をやっているのかといいますと、自動車に依拠した都市づくりから歩行者を中心とした都市づくりに大きく転換しようとしている。</p> <p>ヨーロッパの各都市は、4車線の道路を2車線にして、あとの2車線を全て歩行者と自転車に切り替えるというような方策も今どんどん都市改良が進んでおります。この間、私フランスのリヨンに行きましたら、リヨンの駅前には全く車を入れないという、こういう原則を作ってまして、結果としては何が生まれるかといいますと、消費の動向にかなりの刺激があって、やはり車で、スッと通り抜けて行くというよりは、歩くことによって一つ一つの商品と対話が出来るということになりまして、実はかなり商業の活性化にも繋がっている。これまで自動車というものを中心にした都市づくりということが前提だった訳であります。ここで地下鉄東西線の開通もあり、やはり公共交通機関とあるいは歩行者あるいは自転車、これが楽しく歩ける街づくりをどう復活させるかというのは先程の青葉通、そのほかの緑あふれた街路を持つ仙台であるがゆえに可能性が高いということだろうと思いますので、今日の議論というのは、もちろん来年の3月の国連防災世界会議というものに対する仙台市としての表現というものもありますけども、その骨格には、むしろ先程申し上げたように歩行者の権利の復権ということによって仙台の街をより良くしていく、こういう方向がしっかりあるんじゃないかと気がするんですから、今日の議論を楽しみにしているという次第で、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>涌井会長ありがとうございます。本日は、事務局としまして都市整備局より関係職員が出席しております。4月に入りまして人事異動もございましたので、改めてご紹介をいたします。</p> <p>都市整備局の小島局長でございます。中村理事でございます。福田次長でございます。村上次長でございます。吉野参事兼総務課長でございます。</p>

	<p>ます。廣沢参事兼都市景観課課長でございます。他にも都市景観課及び関係課の職員が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の景観総合審議会でございますが、委員11名中、7名の委員のご出席でございます。佐藤委員、馬場委員、堀委員、宮原委員の4名が欠席でございますが、過半数以上の出席によりまして、規則第31条第2項の規定により会議は成立しております。以降の進行につきましては、涌井会長に議長をお願いいたします。</p>
涌井会長	<p>それでは、さっそく議事に入りたいと思いますが、その前に議事録署名人を決めなければなりませんので、私はもちろんでありますけども、その他に大変恐縮でございますが、庄司委員に議事録署名人になっていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>【庄司委員 了解】</p> <p>先程も申し上げたように、専門部会では基本方針の専門的な検討をしていただいて、この審議会にご報告をいただくということで大変ご苦勞をおかけした訳であります。武山委員に部会長になっていただいて、専門部会を作っていただきまして、縷々検討を重ねていただいたという経過がございます。そこでまずは、ご苦勞に対して深甚の謝意を申し上げたいと思いますし、合わせてその結果を是非ご報告いただきたいという風に思っております。詳細につきましては、事務局から致させますが、概要について武山先生の方からご報告賜ればありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
4. 議事（1）歩行者系案内誘導サイン等基本方針（素案）について	
武山委員	<p>はい、皆さんおはようございます。それでは専門部会、先ほど紹介いただきましたように3回にわたって開催して参りました。お手持ちの資料が2部ございますが、歩行者系案内誘導サイン等基本方針素案というものと、サイン見本帳という2部になっております。こういう全体構成も含めて検討して参りました。直接としましては国連防災会議、そして地下鉄東西線の開業ということに合わせまして、歩行者に対応したサイン計画を進めるということでもありますけども、仙台市全体として、その都市景観・都市形成、これからの街づくりということをベースに引いて、その上でどのようなことをサインとしては担っていかなければいけないのかということを観点として、審議を進めて参りました。</p> <p>それで現行の、緑色の公共サインが市内に整備されておりますが、これはこれで景観賞を以前とられるとか、一定の評価をされております。それから設置台数等につきましても、かなりの台数がついております。そういう既存のものを活かしつつ、課題等を整理しながら今後につなげて</p>

いくというというような形で、検討して参りました。

いくつか現行のものにも問題があるかと思いますが、1つは緑色を使って仙台の緑に馴染むというような形で進んでいるんですけど、若干地図が緑色をベースにすることによって読みづらいのではないかというような問題があったかと思いますが。そのようなことから地図の改善、その表記方法であるとか、外国人対応、それから文字の大きさ等、細かな点そのあたりは具体的に詰めて行ったということです。

そういう具体的なものと合わせまして大きな課題になるのは、メンテナンスということがやはり大きく挙げられるかなと思います。導入時いくらか新しく優れたサインというものがついておりましても器具の劣化やあるいは情動的にすぐに陳腐化していくというのが、この都市サインの非常に悩ましいところでございます。これをいかに新しい状態に存続させていくかということ、この辺りを軸にしておりまして、この点に関しましては、このサイン基本方針素案の2ページ目に、サインを整備していくための体制づくりについて、大きく取り上げております。

基本方針策定後は、仙台市の各部局において横断的に情報交換をしていただくということに加えまして他機関、特に仙台駅等の交通事業者さんの表示されているサインとの整合性、そういったものを担保出来るような道筋をつけていくということを考えでやっております。

それから具体的に調査した時に、公共サインというのはコントロールしやすい部分があるんですけども、その一部でちょっと貼紙的に自転車の放置ですとか、あるいは喫煙のマナーですとか、そういうようなものも随分散見されます。この辺りにつきましては、もう少し広い枠組で、市民参加でそういうマナーをしっかりと改善していただく、そういったことがひとつの仙台市の個性として、あるいは都市の核としての取り組みになっていくのではないかということで、そのようなことについての言及もございました。

それから関連しますけども、おもてなしのサインということで、今回、国連防災会議を中心に外国人の方が来られる、どうしても都市の公共サインだけでは充足出来ないような部分、ちょっとした案内ですとか、ちょっとお手洗いを借りたいとか、そういう部分もあろうかと思っておりますので、沿道の店舗の方々の協力を借りて進めていく必要があるだろう。そういったときに店頭で「こういったことが対応できますよ」というようなことを標記するようなサインというようなものも必要ではないかということで、今回のサインにつきましては公共のサインからマナー、そしておもてなしというところまで広げて考えさせていただきました。基本的

	<p>にはそのような方針で検討しておりますので、あとは細かく事務局の方から説明いただけたらと思います。</p>
涌井会長	<p>はい、ありがとうございました。それでは事務局の方から個別にご報告をいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは事務局の方から「歩行者系案内誘導サイン等基本方針素案について」ご説明致します。</p> <p>本市では平成12年に策定いたしました、仙台市歩行者系サインガイドラインに基づき整備を進めてまいりました。現状から、改善すべき点がいくつか見えてきたことに加え、平成27年3月の国連防災世界会議の開催や地下鉄東西線の開業を控え、多くの来訪者等を迎えることが見込まれることから、わかりやすく、一貫したコンセプトに沿って整備できるように、基本方針の策定に向け、検討を行ってきました。</p> <p>これまでの10年ほどのガイドラインの運用を通じて、改善すべき課題が見えてまいりました。1つ目は、個々の事業により整備されたサイン間の情報のつながりや連携が薄いなど、情報の連続性に関する課題。2つ目は、サインの種類や色彩等の表現がわかりづらい等、情報の伝達性に関する課題。3つ目は、様々なコンセプト、デザインによるサインの乱立等による、景観的に統一感に欠ける状況に関する課題です。専門部会においても、これらの課題を踏まえ、基本方針について、これまでに3回審議を行い、検討を踏まえ素案として取りまとめました。専門部会からの主な意見としましては「情報が集中する場所などの表示情報の整理」、「仙台らしいブランドイメージ・デザイン」、「市内のランドマーク的な建築物等の考慮」、「仙台の都市構造を地図上に概念化するルールづくり」、「見やすい、わかりやすい表示方法への改善」、「多言語併記の整理」などです。お手元でございます、平成12年に策定した歩行者系サインガイドラインを見直しいたしまして、サイン整備に係るコンセプトと共通基準を整理して、基本方針として策定いたします。併せまして、参考としてサインのデザインの提案をサイン見本帳としてまとめ、整備の際の参考といたします。3つの課題を踏まえ、基本方針の検討の視点としまして、1つ目は、情報の拠点の設定と必要な情報の考え方を示し、これまでの案内サインに加え、通り地図・矢羽型サイン等の設置することにより、情報の連続性を確保します。2つ目は、地図の表現をよりわかりやすく改善し、情報の伝達性を確保します。3つ目は、サインの整理・集約化を図ること等により、良好な景観形成を図ります。以上3つを視点として基本方針の内容を検討いたしました。</p> <p>本基本方針の構成は、「1. 目的・対象」、「2. 歩行者系案内誘導サイ</p>

ンシステム、①情報拠点の設定、②市中心部における情報拠点の配置計画、③情報拠点の配置モデル」、「3. 表示基準、①地図・サインの種類、②地図の色彩、③施設アイコン、④多言語表記」、「4. 設置基準」、「5. ユニバーサル対応」、「6. その他」で構成されます。それぞれの項目の概要につきまして、お手元の基本方針素案とあわせてご説明いたします。

それでは、1番目の「目的・対象」についてご説明いたします。お手元の基本方針素案も併せてご覧ください。1ページ目から3ページ目になります。主に仙台市へ訪れる人にとってわかりやすく、また、目的地への円滑な移動を誘導するために、歩行者系案内誘導サイン等のコンセプトを統一し、配置や表示内容をルール化し、情報の整理・集約化を行うため、基本方針を策定いたします。対象としましては、仙台市内全域において、道路・広場などの公共用地及び公的な場所に設置される歩行者系案内誘導サイン等を対象とし、道路標識などの法令に基づいて設置するサインは対象外といたします。

続きまして2番目の「歩行者系案内誘導サインシステム」についてです。素案の4ページから10ページになります。情報拠点の設定については、行動の起点を交通拠点とし、交通大拠点をJR仙台駅、交通中拠点を鉄道駅や地下鉄駅、交通小拠点を主要なバス停とし、起点から目的地までの経路上には、歩行拠点大、歩行拠点中、歩行拠点小と重要度に合わせて情報拠点を階層化し、行動の起点から目的地までの動線に沿った効果的な情報提供の仕組みを設定いたします。情報拠点の設定の考え方により、市中心部における各拠点を分析し、配置計画を落とし込んでみたものがいまお示ししている図になります。仙台駅の西側では、東西は仙台駅から国際センターまで、南北は、五橋から定禅寺通までの範囲を、駅東では、東西は仙台駅から宮城野原総合運動公園まで、南北は、狐小路尼寺線から元寺小路福室線までの範囲の配置計画となっております。情報拠点の配置モデルについては、起点の仙台駅から目的地の国際センターまで青葉通を徒歩で移動する例をあげます。交通大拠点であるJR仙台駅では、広域地図・地域地図・周辺地図と交通ネットワーク、案内所を、歩行拠点大である東二番丁通交差点では、地域・周辺地図、目的地の方向距離などを、歩行拠点小である国分町通交差点では、通り地図と目的地の方向距離を示しております。

3番目の表示基準について説明いたします。素案では11ページから33ページになります。地図の種類としては、仙台市全域を示す広域地図、市街地中心部を示す地域地図、徒歩圏を示す周辺地図、道路沿いの施設を確認する通り地図があります。地図による案内の他、誘導施設

までの距離と方向を示す矢羽根型サインがあります。地図の色彩については、現状の緑色からベージュに変更し、見やすさの向上を図ります。誘導する施設には施設アイコンを、移動する際の日印として手がかりランドマーク等を表示し、位置の把握しやすさの向上を図ります。多言語表記につきましては、外国人の案内誘導のために、外国語併記を行います。県庁・市役所などの官公庁などの主要行政施設や鉄道駅やバスターミナルなどの交通結節点、文化施設、観光施設は日本語、英語、中国語簡体字、韓国語＋ピクトグラムのか国語とします。主要な観光施設等は中国語の繁体字も併記します。一般施設は、日本語、英語、ピクトグラムの2か国語といたします。なおサインを補うものとしてパンフレットなどの他の媒体との連携も行います。

4番目の設置基準についてご説明いたします。素案では34ページから36ページになります。サインがあることがすぐわかるような場所に、かつ、通行の支障にならない場所に設置いたします。歩行者動線の結節点に設置することや、横断歩道から少し離して設置することなどです。また、車いす利用者の視線にも配慮した高さに設定いたします。

5番目の「ユニバーサル対応」についてです。素案では37ページから38ページになります。視覚障害者や車いす利用者を考慮した対応や、バリアフリー機能の情報表記などを行ってまいります。

最後に6番目の「その他」です。素案では39ページから40ページになります。景観との調和につきましては、写真は仙台駅前西側ペデストリアンデッキに、大きさや色彩など様々な多くの案内誘導サインが統一感なく設置されていますが、これらを整理集約化していきます。以上が基本方針の内容になります。基本方針策定後の展開につきましては、来年3月開催の国連防災世界会議、来年の東西線開業、仙台駅大改造と3つのそれぞれの時期を踏まえた、3段階の整備計画の検討が必要となってまいります。また、ハードであるサインを補完するパンフレットやICTの利活用の検討も必要となってまいります。この基本方針を踏まえましたサイン整備につきましては、仙台市が整備する際にはこの基本方針を遵守し、他の機関や民間事業者等については連携・協力を推進するものとし、都市景観課が統括調整していくことで考えております。

今後のスケジュールとしましては、本日の景観総合審議会にて基本方針素案についてのご意見をお聴きした上、素案を作成し、6月2日に素案を公表し、1ヶ月間市民意見を募集します。8月8日の景観総合審議会では、市民意見を踏まえた基本方針案を審議いただき、了承をいただければ8月中頃に基本方針を策定していきたいと思っております。基本

	<p>方針のご説明については以上になります。</p> <p>続きまして、来年3月に開催される、国連防災世界会議に向けたサイン等の整備についてご説明いたします。今までの専門部会での意見を参考に、国連防災世界会議のサイン整備の検討を進めております。現時点での検討内容をご報告いたします。図の赤網掛け部分が予定対象エリアになっております。主に、仙台駅周辺、青葉通、定禅寺通、東二番丁通、国際センター周辺、アーケード等において、既存サインの更新・新設、仮設フラッグ・バナー等の整備を行う予定です。図は、サイン更新に係る道路上サイン・観光サイン等のイメージ図です。道路上サインにつきましては、本体の色彩は、「杜の都」仙台をイメージし、ケヤキ並木と調和する深緑色を基調といたします。地図には施設アイコンを表記し、下部に表示した施設アイコンの施設の詳細を表示いたします。図は、サインの新設・仮設フラッグ等に係る、道路上サインや仮設フラッグのイメージ図になります。こちらの図は、サインと連携した取り組みのおもてなしサインの店頭表示イメージ図です。お店で、外国語が使える、WiFiが使える、ドルが使えるなど店頭表示を行うものです。</p> <p>今後のスケジュールにつきましては、国連防災世界会議の開催に向け、サイン整備として10月中旬から、サインを整備いたします。東西線整備を見据え今後必要となるサイン整備として、地下鉄東西線開業や仙台駅再整備に向けて、関係部署・交通機関との調整協議を12月頃まで実施し、順次整備いたします。泉中央地区・あすと長町地区につきましても、現況調査・課題の整理を10月頃まで、配置計画案の作成を2月頃まで行い、順次整備いたします。</p> <p>以上で、事務局からの説明を終わります。</p>
<p>涌井会長</p>	<p>ありがとうございました。今、武山先生そして事務局からご報告を頂戴した訳ではありますが、委員の先生方もご覧になってお分かりの通り、実は3回の検討といえども、非常に詳細な検討を加えていただいていることがご理解いただけるだろうと思います。先程もご説明がありましたように、仙台市ではちょうどワールドカップの時、それから仙台の開府400年かな、当時平成12年に一度その歩行者系のガイドラインを作っていると。ところが1つは市内での統一的な運用であるとか、あるいは先程お話がございましたように関連機関つまりセミパブリックな機関への協力支援の話であるとか、あるいは市民レベルでの協調・協力というところにまでは至ってないと。それを非常に網羅的に今回検討していただいて、尚且つタイミングとしての第3回のいわゆる国連防災世界会議に合わせた、おもてなしの対応もどうするのかというところまで</p>

	<p>検討・進化させていただいたと、こういうご報告でありました。そこで今ご報告がございましたことについて、ご質問なりご意見がございましたら、是非頂戴をしたいという風に思います。</p>
<p>杉山委員</p>	<p>杉山でございます。3つほど質問のような。1点目は実際に、私はたまにしか仙台に来れないので先程の再確認ですが、地図の部分の構造がガラスが上に張ってある形になっていて、写真を撮ろうと思ったら光って全然見えないというような形で、ちょうど今日も雨が上がったばかりなので水滴はついてるし、ちょっと構造的に見えにくい構造になっているのかなというのが心配になりました。色だとかそういったようなことの変更だけで大丈夫なのかなという心配が1つありました。ちょっと素材とかよく分からないですけども、そういったガラスを使わないタイプっていうのも確かあったように思っておりますので、そんなこともご検討いただくといいかなというのが1点です。</p> <p>2点目は実際にどのくらいになるのかよく分からないんですけども、素案の方の28ページの文字色なんですけども、一般の書類状態だとか製品の説明っていうのだと、地色と文字色の明度差というのは情報保障としては明度差5というのがわりと出てきてるんですね。これは企業さんなどの製品説明に書いてあるのは大体そういう形だとか、法廷書類とかそういったものではそのくらいは保証していくと。ぎりぎりでも明度差4なんです。そうすると、例えば8.5というような、これ8.5くらいかなと思うんですけど、そうするとしっかり取るんだと3.5。それだと文字色が割と薄いんですよ。お洒落なんですけども、大きな地図のところになれば見えるのかなと思いつつも、もしパンフレットに展開なさったりとかした場合には、文字色は少し気になる雰囲気かなと。ちょっと雰囲気でごめんなさい。文字も全体的に小さくて実はサインの文字の見え方、ユニバーサルフォントとか色々、こちらユニバーサルフォントをお使いのようなんですけど、やはりフォント自体っていうより、大きさが意外と問題だろうと最近の共通認識になってきてるので、ちょっと大きさについても、さらにというか現場的にご検討いただくといいのかなというのがありました。</p> <p>それから3点目なんですけども、今朝こう市役所の前を歩いておると、自転車と歩行者が凄く混在していて、わりと怖い感じだったり、通勤途上の時間だったんでちょうどそのくらいの時間だと思うんですけど、自転車サインですとか仙台市は本当にきちんとなさってて、自転車との棲み分けなどとか、駐輪場とか非常に一般の他の都市より整備されてるのは承知しておりますけれども、その辺りについてはあまり述べら</p>

	<p>れてらっしゃらなかったのでもちよっとその辺りは確認させていただければという以上でございます。</p>
涌井会長	<p>はい、ありがとうございました。これについて事務局の方から。</p>
都市景観課長	<p>都市景観課の廣沢でございます。宜しくお願いたします。1点目の現在ある歩行者系の誘導サインの地図の表面にありますガラスについてですが、今回細かく方針には明記されていませんが、基本的にはガラスがあることによりまして、その反射して見えにくいというご意見なり、実地の調査結果もございまして、今回改修にあたりましては、基本的にはガラスを外して地図面が直接見えるような形での改修を今後していくということでの考えでございます。</p> <p>2点目の地図上の文字の明度でございますが、今回いわゆる視覚障がい者を対象として、ある程度、明度・地色とそれから文字の色、あるいはいわゆるマークなどの色ですね、これについては出来るだけ明度の差が取れるようにということで検討の方をしていきたいということで考えているところでございます。数字上、今こちらの27、28ページにはその辺まで載ってませんけども、いわゆるユニバーサル対応ということで37ページの方に、出来るだけそのコントラスト、地の色と文字だったり印のコントラストをとっていけるようにということで検討していきたいという風に考えているところでございます。</p> <p>最後の自転車と歩行者の件なんですけど、実は今回この基本方針の対象といたしましては、いわゆる歩行者系のサインということで、方針の中に基本的には車だったり自転車については、基本はちょっと対象から今回除いているという形を取っております。ただ当然、街中に設置されるサインとしては当然関連性もございまして、その辺につきましては今回説明では十分ありませんでしたけども、今日も参考ということでサイン見本帳の方を作成する予定でおりますが、こちらの方でデザイン的なコンセプトをある程度取れるような、例えば自転車対応のサインとかも、ちょっと今回は入ってませんけども、その辺は入れていってコンセプトを取れるように検討していきたいと考えております。実際、東二番丁とかの自転車の通行路につきましては既にサイン設置されてる部分もありますし、あと合わせて今回歩行者系サインと合わせまして、今後の自転車のサインにつきましても検討を他部局で検討しているところでございます。</p>
涌井会長	<p>はい、よろしゅうございますか。はい、ありがとうございました。その他どうぞ。</p>
吉川委員	<p>2つあります。このサインの緑の色なんですけれども、このサインに</p>

	<p>変わった時、私は市民としてとても綺麗だなと思ったし、ずっと暮らしている者にとっては、保護色なので、うるさくなくていいです。でも緑の季節に、仙台市はバスも緑色なんですよね。サインも緑色。それが仙台人気質だなと思うんだけど、ちょっとポジティブじゃない。そのサインを見たい人にとっては視認性がやっぱり重要で、あそこにサインがあると発見をするっていうこともとても大切だと思うんですね。この街に赤いバスが走っていったら綺麗だろうなと思うんですよ。例えばロンドンだったらああいう古い街並みに赤いバスが走ると、色っていうのは相関的な問題だから美しく感じる。この緑が美しく見えるためには、杉山先生にアドバイスいただければと思うんだけど、なんか一部ちょっと赤のような差し色があると緑が美しく見える。あるいは、全部葉っぱが散った後もその緑と赤の対比でそのサインが街のアクセントになるということもあると思うんですね。例えば見本帳のやつで白と黒板に板書されたような感じとベージュですが、かなり控えめな感じだと思うんです。例えば石造りの街に赤いサインがあった時になんかうきうきして、このサインに沿って歩いてみようというようなポジティブな感じがします。例えば端っこの三角のところ、コーナーだけでも赤になってるとか、なんかコントラストの色があって、そのサインの存在もそれなりに示しつつ、アクセントカラーがその緑をもっと引き立てるみたいな考え方があってもいいのではないのかなと思います。この緑はとてもいいんですけども、これ観光客の方見つけられるのかなといつも思いながら結構歩いていました。</p> <p>それから2つ目。この施設のアイコンなんですけれども、仙台市民にとっても、アイコンだけ見たらちょっと分からない建物もありました。例えば、その施設側でもウェブサイトに行けばこのアイコンがきちんと出ているとか、相関性がないと、そのアイコンがそこだとなかなか認識出来ないかなと思います。このサインが出来上がるまでにその施設との連携も必要なのかなと思いました。</p>
<p>涌井会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。この点はいかがですか。</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>1点目の色の件ですが、現況のサインにつきましてはサインの元々の枠の色も緑ですし、それから地図がある部分については地図の部分も緑ということで実際にサインがあること自体が、景観に馴染んでしまって非常に分かりにくいとか見つけにくいというような状況がございまして、今回緑自体はやはりいろんな方々からある程度仙台らしいということで評価を受けて、美しいということも言われたものですから、既存のその緑色の色は枠に残してそれと地図の方、出来るだけ見つけや</p>

	<p>すい、且つ、分かりやすいベージュ色に今回もついでいこうかなということで検討の方をさせていただいているところでございます。あとあの実際に赤の差し色みたいな話でしたが、今回専門部会の方でも来街者の方、あるいは仙台市内を回遊される方が都市の中の目印といいますか、ランドマークはある程度イメージしながら移動すると、非常に移動がスムーズにいくということで、今回手がかりランドマークというのを3箇所程度、街の中、中心部であれば設定して、青葉城址と仙台メディアテークとJR仙台駅ということで設定させていただきました。そこは地図上も出来るだけ目立つというかワンポイントになるような赤い色を使わせていただいたりして、ちょっと工夫なんかをさせていただいているところでございます。あと先程の枠にワンポイントというのは少し検討させていただきたいと思っておりますけども、そういうことで今回分かりやすさ、あるいは色もいろんな形の色も使いながら出来るだけ分かりやすい・見やすい、見つけやすく分かりやすいということで検討させていただいた状況でございます。</p> <p>2点目のアイコンの件なんですけど、先程もちょっと事務局の最初の説明にもありましたように基本地図上に施設アイコンの方を配置いたしまして、ちょっと見にくいんですが例えば、本編の方の17ページ・18ページをご覧いただければと思うんですが、先程の手がかりランドマークについて仙台駅とメディアテークと仙台城跡ということで、その他魅力のランドマークということで出来るだけ仙台市としてもいろんな施設誘導したいものを緑色で表示するような形になってまして、例えば仙台市博物館とか国際センターとか県の美術館とか、こういう施設が地図上で標記されておりまして、ただ単にこれだけですと少し分かりにくい。文字は併記いたしますけども、分かりにくいものですから、地図の下に小窓といいますか、少しマークとその施設の紹介それも合わせて標記しながら上と下を見ていただいて、分かるようにというような地図上での今回工夫というかわかりやすい形で、</p>
吉川委員	<p>そういうことじゃないんです。例えば外国人の方が行きたいときに絶対ウェブ検索しますよね。その時に同じアイコンが出てくれば安心しますよね。あと例えばいろんなその民間のガイドとかにも、同じアイコンが使用されてることで相乗効果が出るので、例えばそういうものもウェブ上で共有できるようなシステムとかそういう風にしていった方がいいということで、みんながそれを使いだせばいいということなんです。</p>
都市景観課長	<p>今回の手がかりランドマークもそれから魅力のランドマークもそうなんですけど、実際に市の部局の中だと、どちらかというと観光系の部局</p>

	<p>の方で、是非こういうものハード系のサインに載せる事と同時にまだ具体的にそういうウェブ上でのものまで対応はできてはいない状況ですけども、今後市のそういう観光案内の中でもこういうものを持っていければというのが今の検討状況でございます。吉川委員おっしゃられますように、市だけではなくて場合によっては各施設までそれが連携したというか同じような形をとれるとなお、それは是非今後の連携で検討の方させていただきます。</p>
涌井会長	<p>ありがとうございました。その他いかがですか。</p>
庄司委員	<p>施設アイコンわかりやすくというのに同感であります。それプラス、ピクトグラム、25ページですか、あるんですけども、全国共通の部分と仙台独自の部分もあるのかなと思うんですけども、これらも今言われたような部分でわかりやすく、皆さんにも地図上、文字だけよりも非常に見やすい部分で助かるんじゃないかなと思いますので、工夫しながら有効に使うようにした方がいいのかなと思います。また平成12年作成のサインガイドラインですか、これまでのサインと今回の誘導サインとの一体性はうまくいくのかどうか、また国のサインとの一体性はどのようになっているのか、この辺伺いさせていただきます。</p>
都市景観課長	<p>今回ピクトグラムにつきましては、地図で表記する場所につきましては日本語と英語、ピクトグラムは表記する予定でございます。重要な施設につきましてはその他に中国語、韓国ということで4か国語表記にプラスでピクトグラムの方を設置したいと。できるだけピクトグラムを地図上で表記して文字で見なくてもピクトグラムを見て施設がわかるようにということで、今回地図上の表記をしていきたいというふうに考えているところでございます。</p> <p>現在12年のガイドラインに基づきまして設置されている歩行者系のサインについてでございますけども、こちらにつきましては、元々のサインの本体は基本的には活用する形で、今回の方針に基づきまして改修の方を適宜行っていきたいというふうに考えております。併せて連続性の確保ということで今回新たに通りの施設とか道路とかそういうのがわかるように、交差する道路ですね、通り地図というのを設置すると、矢印で施設までどのくらいの距離かというのがわかるように矢羽根型のサインというのも設置して、連続性を確保するというので既存のサインを改修しながら全体的に連続性がとれるようなサインの整備の方を進めていきたいというふうに考えているところでございます</p>
涌井会長	<p>もう1つ国との一体性について。</p>
都市景観課長	<p>国だけではないんですけども、宮城県さん、国交省さんなど国、他の</p>

	<p>機関との関係につきましても今回の基本方針策定後につきましても、内容についてご説明した上で、実際にそれぞれの機関の方が整備の方される状況におきまして、できるだけこちらの方針に基づいて整備もしくは改修していただけるように協力の方お願いしていきたいというふうに考えているところでございます。</p>
涌井会長	<p>よろしいございますか。その他いかがですか。</p>
杼窪委員	<p>質問じゃなくて、教えていただきたいんですけど、このピクトグラムの中のおもてなしのこういう格好を女性がしてるの、例の東京オリンピックの誘致の際の、これ独自で作ったんですか、それともこういう形でピクトグラムがあるのですか。</p>
都市景観課長	<p>こちらの方、資料1の一番最後のページに、見本帳の方にも入ってましたが、見本帳の最後のページ、こちらの方にあります「おもてなし仙台」というこの図のことだと思うんですが、これについては今回サインの方針を作る中で1つの例として今回新たに作ったものでございます。</p>
杼窪委員	<p>独自にね、是非すすめて下さい。</p>
巖委員	<p>地図に通り名が書かれていて新しい街に行ったら通り名を確認しながら行きたい場所を探したり、そもそも海外と日本の都市構造が違って海外の場合はどっちかという通り名を確認して番号を辿って行けば、あるいは何通りと何通りの交差点はこことか割と行きたい場所が見つかりやすいんですけど、日本は番地が中心になっているのでそもそもそこは多分海外の方にとってはわかりにくい。今言いたいのは地図に出ている通り名と実際街に通り名表示がちゃんと表示されているかどうか、その整合性が設置場所から見て必ずその通り名の確認ができるかどうかということも大切かなと思います。仙台には長く住んでるからあまり日々気にしていないんですけど、よその街に行くと、ここ地図は何々通りと書いてるんですけど、はたしてこの通りは何通りなのかって、結構見つけにくかったりしますんで、そのあたり少し地図だけではなく、実際の通り名とかそういう整備も少しずつ進めていけたらと思います。</p>
涌井会長	<p>つまり巖さんがおっしゃってるのは、海外の方はどちらかという格子状の都市計画の中で生きているから京都と同じようにXYの軸で比較的簡単に探せると。ところが日本の街路ってフラクタルなんですね、なんだかよくわからない。サインがあってもその通り名とサインと合わせてみないと、今自分がどこにいるのかっていうのが現認できないっていう危険性があるんで、そういう事の整合化は考えてますかっていう、こういうご質問でよろしいんですね。</p>
巖委員	<p>はい、そうです。ありがとうございます。</p>

都市景観課長	<p>今回案内誘導サインとして設置する内容につきましては基本は地図の表記とこちらのサイン見本帳なんですが、文字だけの表記と基本的には両方表記の方させていただくということで考えてございます。地図につきましては、周辺だったり、地域の地図だったりそういう地図を表記しまして、その中に必要な通りの名称も、細かい細街路まで入りませんが、基本的な街路上のものについては、道路の表記をしていくという形で考えております。</p>
都市整備局長	<p>当然我々も道路表記については道路法、他の法令でありますので、それまでは、今回対象外にしてますけども、当然歩行者としては上の看板を見て、案内表記と上の看板を見て「あ、ここだ」という事になりますので、我々も十分にリサーチをしてですね、そこは整合を図るようにしていきたいと思います。</p>
涌井会長	<p>是非そうしていただきたいなと思います。ちょっと私も質問してよろしいですか。ストレスがたまってくるので、自分で言いたいことも言わないとね。</p> <p>背景からいうと、ぶっちゃけて言えば急に市長さんが熱心にこういうこと言い出してですね、誰がやるのかっていう話があって、結果としては景観課が率先推範してか、あるいは貧乏くじ引いたのかよくわかりませんが、景観というものを遡及しようということで非常に色々検討加えてるということで非常に結構なことだと思うんですね。サインというものを通じて景観意識が広まっていくというのは非常に悪いことじゃないと。ちょっと私が気になるのは、もちろんデザインの話はかなり検討していただいているという気がするんですけども、これからの交通体系って実はITSを抜きにして語れないんですよ。今まで、ご承知の通り、自動車の中のITSの話で終わってたんですけども自動車と街のITSというのがこれからの中心になってきてですね、私、政府のそういう委員会の委員でもあるんですね。すると歩行者について同じようなことが言える。海外から来てる方大体ですね、どうやって街を歩いているかっていうとほとんどスマートフォン見ながら、しょっちゅうこれをやりながらここがどこなのかっていうのを見ながら行ってるわけですね。さらにもう1ついうと災害時点でですね、サインが出すウェブ情報って極めて重要なんですね。今まではどちらかというと、今ここにあるのは、ビジュアルな視認性の高いサインの議論してるんですけども、サインの機能、まして国連防災世界会議やるときに、こういう仙台市の取組みをしますっていうことが、やっぱりどっかに見本的に出てこないと非常にまずいと、予算の関係もあるから全部にやるってというようなことはい</p>

いせんけれども、先ほどランドマークというお話があったんですが、そういう場所についてはですね、ビックデータなるウェブ情報がですね、かなり拾えるというような、こういう事も検討の対象になるんじゃないかなと。これ景観の議論かどうかというのは別問題として、少なくともそういう仙台市として実は街の中にこういうのがありますっていうだけでも随分アピール度が違う。まして、海外から来られた観光客、インバウンドの人たちを増やそうといった時にですね、仙台市民なり、宮城県民なりですね、あるいは日本人なり、少しずつ認知度が違ってくるわけですけど、それはそれなりに自己防衛ができるんですけど、海外からのお客様ってまったく災害時には無防備なんですよ。そうした時にどこからその情報を得るのかっていう事がすごく重要で、そういう時にこのサインというのは非常に重要な役割を持つという気がしてるんですね。私は、先ほど申し上げた日本の道路というのは、3区分にしろって言うてるんですね。A点とB点を結ぶ道路。街のゾーンの中でゾーンが主役になって運用の形が決まっていく街路。そして人とか自転車とかヒューマンスケールで動く道というこの3つで多分これからの道路って区分されていく可能性が高いと。その時に何が一番重要かというやっぱり私はどちらかというとい未だに携帯はアナログ派ですから、あんまりそういうことに慣れてないんですけども、多くの外人なり若者見てれば必ずスマートフォンでやってる。それに対応できないのはこれからやがてまた再投資をしなきゃいけないという可能性があるんで、そういったことについて先ほど最後の事務局のところに一考ですね、ICTの方向に対応することも検討するということが入っていたことは非常に多とするわけですけど、その検討はですね、景観課がやるかどうかは別問題として非常に重要な検討になるんじゃないかなと。とりわけおもてなしの時には非常にそういうことが重要だなという気がするんで、できればその部分についても少し膨らませて言及して、景観課が指導するかどうかは別問題だけれどもそういう趨勢にあるんだという事はしっかり認識を共有しながらそういう方向どうするんだってことを検討すべきなんではないかなと、これ第一ですね。

第二点はですね、今の話とまったく真反対なんですけども、私世界中の国際会議に行くんですね。国際会議の時に一番感動するのはやっぱりマンパワーなんです。例えば、いくら立派なサインがあっても、外人にとってはどこが会場だか目的地かわからない。そういう時に若い人が、こういう帽子を被って立ってるんですよ。彼に聞くと、あなたはこっち行った方がいいよとかガイダンスをしてくれる。これは、サイ

	<p>ンが立派であるという事以上に非常にこの地域の人たちがもてなす気持ちがあるんだということ、対面販売の売り子と買い手の感覚と同じように感じるんですよ。そういう仕組みも、一方ではしっかり考えていかないとサインだけに頼ればいっていいというものではないってことも付け加えておきたいなど。以上がストレス解消の話となりました。</p>
<p>都市整備局長</p>	<p>それに対して特に用意はしてませんでしたけど、今回は、会長おっしゃったように市長の肝入りで始まりました。日頃市長も感じていたことを何かのきっかけがないとできないということもございますので、来年の3月に向けて、また東西線の開業もありますので、予算もつきやすいということございましてそれでやっていると。問題は我々としても専門家の先生方や、これから市民意見聞きますが、変えていくといいものができるだろうと我々としても当然そう思ってるわけですが、それを作ることによって逆に混乱を招いてしまうというのはよくないんで、そういう意味では今おっしゃったようにICTの活用等するという事は、そことの整合性を図ることが非常に重要な視点でございますので、これについてはうちの部局でないかもしれませんが、全庁的に取り組みをそこも含めて行ってまいりたいと思っております。</p> <p>マンパワー等につきましては、当然おもてなしというのはFace To Faceという今のご指摘もとてもだと思いますし、そこについては十分に国連防災会議の準備事務局の方でも進めておりまして、そこもサイン計画についても観光的な経済局と国連防災担当局と3局合わせて、いわゆる整備する建設局も一緒に検討しておりますので、そういう意味ではいわゆるハード系だけでなくそういったことも含めて全庁的に取り組むということについての意識はございますので、今日のそのご意見についても関係局の方に伝えてまいりたいと思います。</p>
<p>涌井会長</p>	<p>是非よろしくお願ひします。それではもっともストレスがたまってると思います武山先生。色々みんなの議論聞いていながら、色々中心になってやっていただいて、ご意見を頂戴いたしたいと思います。</p>
<p>武山委員</p>	<p>ご指摘がごもっともなことばかりで、簡単に補足しておきますとガラスの話ありましたが、あれは旧来印刷コストが高くて地図を印刷して文字が変わった時のために、ガラスの裏面に文字だけ印刷して合わせたのです。ちょっと文字が変わった時に対応しようよということがあったんです。それが近年大型出力機というのが屋外使用でも耐えうるようになりましたので、最近の傾向としてはどンドン印刷してシールを貼っちゃうと、変わったら更新していくと、むしろその方が情報もリフレッシュしやすいんじゃないかなと思います。それから自転車</p>

は絶対必要ですね。歩行者と一緒に表示しなきゃいけないと思います。文字につきましてはコントラストもご指摘の通りでデザインの関係者どうしてもマイルドにする傾向にありますんで、むしろ少しきつめにするくらいが現場にいたときにはいいかなと。いずれにしても原寸モデルを現場で確認するというのがサイン計画の必須の事になりますので、今後そういう現場確認の中で調整いただいたらいいかなというふうに思います。ピクトの話もご指摘の通りでありまして専門部会の中でも、例えばメディアテークであるとかそれぞれがお使いのシンボルマークみたいなものもあるんじゃないかと。そういういったものとも整合させながらどういう表記がいいかと、いずれにしても決まった表記を統一的に展開していくという事が必要じゃないかなと思います。蔽さんのご指摘で地図の通り名の話がありましたけど、これにつきましては、いわゆる来街者が対象にはなるんですけども、来街者が聞いて案内できないと意味ないですし、結局市民の方がランドマークであり通り名を周知されているかどうかというのが大事なんですよね。そういう意味でも必ず通り名が視認できる場所にあるというのは必要なことだと思います。海外の事例なんかですと、コーナーコーナーのビルに通り名必ずつけてられますよね。そういうものを今後仙台市として義務化、要するに通りに面した建物の所有者は通り名を表記をするというような基準を盛り込んでいただくような、それで基準となる通り名ができますと、むしろ通り名に設置するサインはもう少し柔らかい、皆さんが通りを楽しんでいただけるような意匠を伴ったサインが相応しいんじゃないかなというふうに思います。

I T Sの話最後出まして本当に大事なことですけど、海外から来る人へのサインの対応考えるときに必ず出てくるのが、無事に帰国できることというのがあります。特に都心部ですといろんなバイパス経路がありまして、その情報さえわかっていたら帰国便に間に合うということもあるわけです。例えば京都駅で右往左往している旅行者が、なんだ、この行き方で行ったらちゃんと間に合ったじゃないかというようなこともあるのです。そのような事から情報体系というのは必要だと思いますし、頭出しだけでも防災会議ですから出せたらいいなと思います。当然スマホとの関係ですとか、最近デジタルサイネージというのも随分と出てきてますので、屋外の要所要所で緊急時にそういったものが表示されると効果的です。実はJ Rさんなんかでもうすでにそういうサインをつけられています。防災時にそれらを連携して緊急情報流すというようなことも、例えば福岡市なんかでは実際に社会実験行われていますので、この防災会議に合わせて仙台中のデジタルサインが緊急情報に対応するには

	<p>どうしたらいいかというようなことの議論始めていただくというのも、またよいのではないかなと思います。最後はマンパワーの話もありましたけど、実際にそういうのをやってる会議がいくつかありますので仙台の市民団体等とリンクしていただいたらいいんじゃないかなと思います。仙台にはデザインリーグなんていう団体もありまして、このサインそのものもそうなんですけども、誰かが管理していくといいますが、行政ももちろんそうなんですけども、意匠的な面を含めて市民の中からもそういう管理者が出る、あるいは具体的にデザインコントロールするプロがそこにいればベストです。東京メトロは営団地下鉄時代から延々とサイン計画されてますけど、やはり一定の事務所さんが管理されてるんですね。これはとっても大事なことです。実は日本の都市空間というのは例外の連続なんです。いくらマニュアルがあっても、この場所は小さくて設置できないねというようなケースは多々ありまして、例外が発生するんです。例外の例外を作らないことが大きなポイントになります。そのためには、そういうしっかりとした推進体制というものを作っていくことがベストではないかなというふうに思います。</p>
<p>涌井会長</p>	<p>どうもありがとうございました。実はまだ時間はあるんですが、このことは言っておきたいということがございましたら。私忘れないうちにちょっと伝えさせていただきたいんですが、実は仙台らしいサインっていうのは、ひょっとするとこういうところにあるのかなっていう気がするんですけども、これほど街路樹が成長している見事な中心市街地を形成しているところはないんですね。そうすると意外と見落とされるのは高さの問題なんです。木の成長とサインの高さって非常に微妙な関係があって、そこは是非測地的に色々基準を設けたとしても検討していただく必要があるんじゃないかなと、この点が1つ。</p> <p>もう1つは法令上行政表記としての通り名とですね、それから愛称名がね、非常にわかりにくいケースがあるんですね。県道なんか何号線といってるんだけど、実はその一部は何か通りという名前がついてると、この辺が非常にどれを採用するのかという事がすごく大事なので、先ほど通り名とサインとの整合性を図って下さいというのもですね、このあたりのことはちょっとしっかり調整しないと、どうも役所の側は行政表記みたいなものをしがちなんで、これまた混乱のもとになってくるので、そこはしっかり整備をしていただきたいなというふうに1つございます。</p> <p>もう1つ付け加えると先ほど武山先生の方からもお話がございましたけども、クロスポイントっていうのは結構重要なんです。戦略的クロ</p>

	<p>スポイントっていうのはやっぱりサイン上考えていくっていう事はすごく大事で、先ほどランドマークという話がありましたけども、戦略的クロスポイントがどこにあるのかっていう事をきちっと精査していただいて、そこには先ほど申し上げたような枢要なサインをしっかりと置いていくっていうことが非常に大事なんじゃないかなという気がします。これは意外と、どちらかというに移り変わるものでありまして、例えば商業地区で昔はここが流行ってたんだけど、今は流行ってないとか、こういうことで結構戦略的クロスポイントって移り変わっていくんですね。でもやっぱり外から来た方々がここはそうなんだっていうことが理解できるような、そういう場所をぜひ見つけていただいて、機械的にはなく、そこそまさにアナログに見つけていただいて、そういったところを重視していくっていうことも少し検討していただくとありがたいかなというのが私の意見であります。その他どうぞみなさんおっしゃっていただいて。はいどうぞ。</p>
<p>杉山委員</p>	<p>この前も、第一回ですかね、前回の総合審議会の時にJRの方ですとかバスですとかみなさんいらして、こういった共同で一緒になっているのは全国的にも非常に珍しい、すばらしい会議だなんて、私申し上げたりしたんですけども、それを考えると実際にこの資料をいただいた時に、もう少し配置計画の事だとかJRさんから地下鉄あるいはバスの案内とか、そのあたりに触れられてない感じが正直言って否めないんですね。先ほど武山委員からもお話がありましたけども、ふと考えてみますと仙台に来て仙台の飛行場に行くバスって見たことないしなとか、案内は例えば私は今日山形から参りましたが、例えば、アナウンスってやっぱりないなとかですね、そういった連携の取り方ですとか、作業フローで今後のスケジュールを見ても関係部署あるいは交通機関との調整協議っていうのは予定されておりますので、もちろん、そこでなさるんだろうなと理解しておりますが、そういった部分も少しパブリックコメントの時にも関係の交通機関等々の協力を仰いでいて、今やっていますといったことも少しアナウンスしてアピールしたいほうがよろしのではないかなと。そうすると市民の方からもそれについてのご意見を賜れるというふうに、非常に期待して私など新幹線で降りてからの案内ですとか、やっぱりデッキがあることによって離れていたりとか大きい道路ですのでちらばって停留所があったりですとか、そういった大きな都市ならではのウィークポイントも残っているのでそういった一番結節点といえますか、その案内がいったいどうなるのかなと非常に期待されるので、そんなことも触れられておくとよろしいのかなと、お</p>

	願いたい面も含めての意見でございます。
庄司委員	<p>先ほど話出ました緊急情報で避難、外からきたお客様方にお知らせしたりあるいは避難場所をわかりやすくという、今回の国連防災会議にはなおさらにそういうの整備する必要があるんだろうというふうに思いますし、これは景観課じゃないと思いますけど、関係局にぜひその辺を連携とっていただきながら、会長からもお話あったような部分修正すべきだろうなというふうに思います。防災会議から先になるかと思いますが、昨年楽天が日本一になって結構野球人気も、本市では高まっておりますけども、これからを踏まえてマラソンだったりなんだりサッカー等、当市でも色々誘客に向けて経済効果を高めようということやっていくわけですが、そんな中で今回のサインの中に、ランドマークという部分で当然スポーツ・文化施設も入ってくるんだろうとは思いますが、しっかりとその辺目立つようにあるいは文字ちょっと太めに書いてもいいのかなというふうにもちょっと思ってるんですけど、そういう経済効果を狙うという部分で。あと、国連防災会議などはホテルとかみんな予約でくるから問題ないと思うんですけど、スポーツ文化関係ですと県内および県外から、来たとき突然ホテルとったりという、どこにホテルあるのかわかんなかったりもするんでホテルの位置の部分などももう少しわかるようになってれば、県外のお客さんには優しいお知らせにもなるのかなと、ま、他のパンフレットでも見ればいいという話にもなるのかもしれませんが、しかしながらそういうふうに掲示板を見てある程度「近くにあるな」とか、わかればいいのかなとも感じましたんで、その辺の今後の案内板作りに多少参考にさせていただければなと思いました。以上です。</p>
涌井会長	ありがとうございます。その他いかがですか。
巖委員	<p>この外国語表示についてですけれども、ご存じの方も多いかもしいんですが、中国語って漢字は2種類使われていて、今表示されているのが中国の大陸の方の漢字使っていて、時々両方使っていたりとかかなりしつこいなって感じもするんですが、わかっていたくという観点からすると日本語の漢字でも十分わかっていたら、どちらかという感情の問題というかそういうところがあったり、今大陸の漢字が、実は中国が建国してから日本の旧字体に似たような漢字を簡略化して今の形に至っていて、多分台湾の方からするとむしろ日本語の漢字よりもわかりにくい漢字になってるんですね。そのあたり、もし何か検討した上で、簡体字を選ばれたということがあれば教えていただきたい。特になければそれは結構ですけれど。</p>

都市景観課長	<p>中国語の表記についてなんですが、文字の表記につきましては国の方でも文字表記のガイドラインという考え方を示しております、基本中国語の場合には簡体字、先ほどおっしゃられた大陸系の言葉を表記を基本とするという形になってまして、他の自治体につきましても簡体字で表示している自治体が多いという実情がございます。今回仙台市につきましても基本簡体字表記ということなんですが、実は仙台市に来られる観光客の方は台湾の方がだいぶ多いという実態がございますので、そういう意味では観光系の施設等につきましては実際には繁体字、台湾の方で使われている中国語も合わせて表記していければということで方針に定めてるところでございます。</p>
厳委員	<p>わかりました、ありがとうございます。</p>
涌井会長	<p>でもそれ、2つ表記するっていうのちょっとくどくないですかね。</p>
厳委員	<p>そうなんです。日本の漢字も似てる。漢字圏じゃない方、なんなのこの似てる3種類っていう感じになるんですけど、その辺は。</p>
武山委員	<p>その辺については色々外国語表記が検討されてるんですけど、一般的には日本語と英語のアルファベットの音による表記があればわかるのです。画面も文字を4つ入れると非常に見づらくなるということもあって、おっしゃるように日本語で書いてあってほとんど同じような漢字が繰り返しにされるといのも、逆に見づらいと思います。できる限り2か国語表記でどうしてもという場合に限りてそういう表記をしたら良かったというふうに思っております。</p>
厳委員	<p>私自身の理解でいろんな言葉表示されているというのも、ひとつのおもてなし精神の表れかなというところがあって、確かに韓国の方にとってはこのハングルがあった方がいいかなっていうふうに思うんですけど、多分中国圏でしたら日本語の漢字で十分わかっていただけるんじゃないかなと思います。</p>
涌井会長	<p>やっぱりおもてなしすごく難しく、気遣いと心配りと気を使いすぎというのとあって、そこは整理してかないと非常に難しいと、先ほど私ウェブでちゃんとやるべきだという事言ったのは、ある種ここにかざせばちゃんとそういう情報が取れるとか、そういう方がむしろ外国人にとってはありがたいんで、そういうことがやっぱりすごく大事なんじゃないかなと、そこをサブシステムとして使っていくということがすごくいろんな意味でサインもすっきりするし、わかりやすい、さらに親切だところということになりはしないかなという気がするんですね。本当にヨーロッパなんかでも認証マークがあってちゃんとポンとやると日本語、とかっていうところも出てきてですね、しっかりそれは読めるわけですよ。</p>

	<p>その方がよっぽどありがたいと。デジタルサイネージと視認性のサインというものをうまく組み合わせるっていう仕組みがすごく大事で、それが先ほど申し上げたように災害情報なんかにもつながる事になる。そこはやっぱりしっかり仙台市のセンスとしてね、きちっと検討された方がいんじゃないかなと、テクノロジーの面でもしっかりしてますよということも絶対必要だろうというふうに思いますので、是非そうしていただければというふうに思います。いかがですか、はいどうぞ。</p>
<p>杼窪委員</p>	<p>地図の方なんですけども、かなりの話し合いしたんだとは思いますが、地域地図なんかでいくと、通常仙台人はこの西を上には考えない書き方になって、素直に北を上にしてるんですけども、そしてこの地図見にくいと思いませんか、仙台人にしてみたら。逆にお客様が来て聞かれたときに教える仙台人もしくは仙台のちょっとお年を召した方は一瞬どこの地図かと思うくらいですよ。これ何か理由があるんでしょうか。特に地域地図ですね。</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>今回地図の表記の方向についてなんですが、広域地図、仙台市全域については通常の地図情報ですと北が上ですので、上を表示するという形で表記していきたいというふうに考えています。地域地図と周辺地図につきましては、サインがある場所の方向に合わせて、実際に行動することを前提に向いている方向を上にして表記しようというふうに考えてまおります。18ページですが、仙台駅のペデの上にあるもの想定し、表記してまして、それも西側を向いてる地図ですから、西を上にしてるといような表記で設置していきたいというふうに考えているところで、周辺も同様にこの場合も西を向いてる場所で設置してますので、西が上という形を考えています。</p>
<p>涌井会長</p>	<p>その方がわかりやすいんですか。</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>基本的に地図については誘導する施設を見ながら行動する場合に、やはりその方向を向いた地図の方が見やすいというふうに一般的には言われております。</p>
<p>武山委員</p>	<p>21ページに解説がありますが、結局広域地図は太平洋側があつてというような北上とした地図のイメージがあると思うんですね。直近の一番拡大した地図というのは当然右へ行ったら右と一致してほしいと、この地域地図というのは微妙なところありまして、皆様がこれくらいの範囲だと北が上の方が皆さん理解できますよという事であれば、そっちを取るという可能性もありますけども、ペDESTリアンデッキに立った時に見て、例えば地下鉄で右の方に行ったらこれは北だったりするとやっぱり向きを変えた方がいいでしょう。ちょっとここは悩ましいところです。</p>

	ね。
涌井会長	私は車のGPS見るとわかるんですけどね。ノースアップというのとヘッドアップというのがあって、かなり広域だとノースアップの方がいいんですよ。ところが近隣になればやっぱり矢印が左の方にいながら実は自分は前を向いてるんですから、それはこっちの方がいい、それと同じ考え方で割り切っていいんじゃないですか。
吉川委員	私もそう思います。やっぱり進行方向でいちいち北が上ってという認識はしなくていいと思います、近いところでは。地図の読めない人ほど地図を回さなきゃいけないという考え方から言えば、私はこのやり方がわかりやすいと思います。
桴窪委員	それは理解してるんです、3番4番。地域地図で仙台市これは理解できますか。
吉川委員	地域地図はおっしゃる方がいいと私は思います。
桴窪委員	地域地図これ、昔の仙台市ですよ。
吉川委員	ですよ。わりと最近までの。
桴窪委員	最近までの仙台市の全図ですよ。
杉山委員	JRの使用者ですと、地図で考える場合、北を上縦にやってくるので、これだとどこ走ってきたんだろうとわかんなくなっちゃうんですよ。だからペデの上でも、北が上の方がいいのではと思います。また、この地域地図だと広域地図に思うんですよ。
桴窪委員	人口40万代の仙台市ですよ、これ。
涌井会長	これだと違和感がありますよね。周辺地図からはヘッドアップでいいと思うんですけどね。
武山委員	微妙なとこなんですよ。
桴窪委員	絶対、お年寄り道聞かれたらこの地図で一瞬っていうか、一瞬でも頭変えられるお年寄りだったらいいですけど、私最初地下鉄東西線を書いてるのかと思ったんですよ。
杉山委員	そうですね。私仙台じゃないけどそう思いました。
桴窪委員	検討してみてください。

<p>涌井会長</p>	<p>私も何百回となく仙台に来てるんだけどもいつも迷うのはどっちが上りでどっちが下りか、すぐわかんなくなっちゃうんだよね。なかなか難しいよね。そういうご意見もあるのでここは是非ご検討いただきたいと思います。その他いかがですか。</p> <p>それでは少し早めではありますが、今日いただいたご意見の中で実は押しなべて言いますと皆さん、非常に検討しっかり進化していただいているなっという印象のご意見だというふうに思います。したがってこれではなければならないということは、全体をネガティブにするという意見はなくて、ポジティブな受け止め方を前提にして、個別にこうしたことももう少し検討の進化を加えてほしいと、こういう結論だったろうというふうに思いますので、これを前提に次のステップへ是非進めていただきたいと。</p> <p>これは景観審議会のカテゴリーの中で収まる話と、他との整合性で考えていかなきゃいけない話、両面今日、諮らずも出てしまったわけがありますが、そこは是非今日わざわざ小島局長もご出席でございますので、整理をしていただいて、これは広範な検討事項にしようということは、そちらの方でまた検討していただいて、それでこの辺はこういうふうになりましたという事を次回ご報告していただくということを前提に、それで次のステップに進むということでいかがでしょうか。よろしいございますか。ありがとうございます。じゃあこれで結論を出したいと思います。私の方からお返しします。</p>
<p>5. 閉会</p>	
<p>事務局</p>	<p>涌井会長、委員の皆様、大変重要なお意見どうもありがとうございました。引き続き検討してまいりたいと考えております。最後に事務局よりご連絡いたします。次回の審議会は8月8日金曜日、パブリックコメント終了しまして、その結果を盛り込んだ基本方針の案についてご意見を頂戴したいと思います。合わせて前年度から取り組んでまいりました屋外広告条例の規制の見直しなどについても議題としてあげたいと考えてございます。</p> <p>以上をもちまして平成26年度第1回仙台市景観総合審議会を閉会いたします。皆様どうもありがとうございました。</p>